

◇2016年度実施の海外教育旅行の実態とまとめ（中・高）＜抜粋＞◇

この調査は、2016（平成28）年度に実施された中学校・高等学校の教育旅行に関するものである。

なお、調査は全国の国立・公立・私立等の中学校・高等学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	90	13,329	2,145	15,564
抽出校数	90	3,730	2,046	5,866
回答校数	15	821	443	1,279
回答率%	16.7%	22.0%	21.7%	21.8%

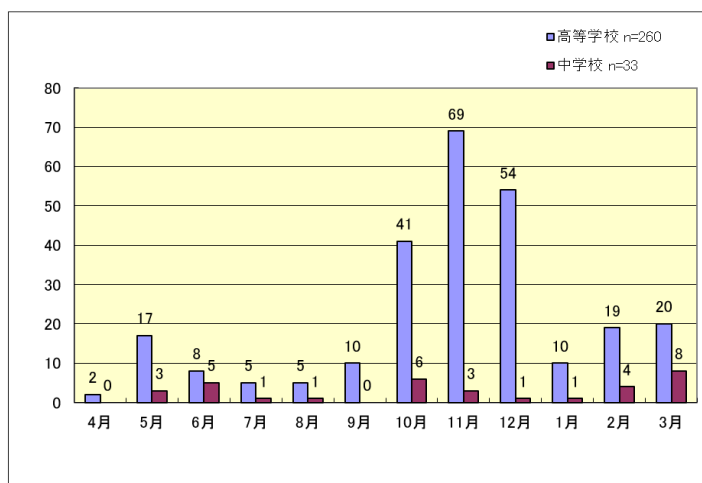
※回答率は、抽出校数に対する回答校数の割合

調査項目は次の通りである。

- (1) 実施学年 (2) 出発月 (3) 宿泊日数 (4) 行事種別 (5) 訪問国名・地域名
- (6) 宿泊都市 (7) 訪問都市 (8)～(10) 参加生徒数・引率教員数・合計人数
- (11) 参加形態 (12) 生徒一人当たり旅行費用 (13) 学校間交流の具体的内容
- (14) 海外教育旅行実施に当たっての課題や問題点

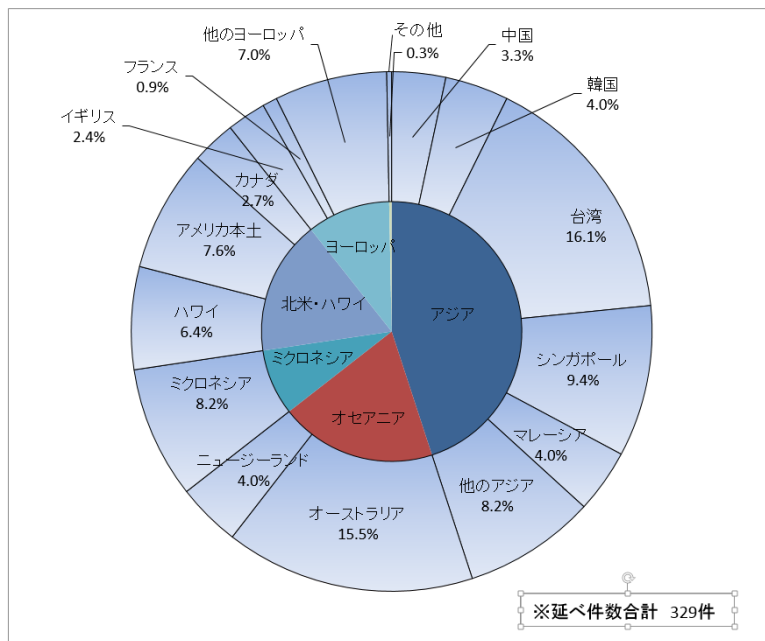
ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細については「教育旅行年報データブック2017」をご覧ください。

1. 海外修学旅行の実施月（件数）



中学校は実施のほとんどが私立校ということもあり、時期が分散している。高等学校では件数ベースの63.1%が10月～12月に実施しており、前年の61.1%より若干上昇し、この時期への集中は強まる傾向。特に公立校にこの傾向が強い。2・3月実施も多く、2学期（全件数の66.9%）、3学期（同18.9%）での実施が大勢である。

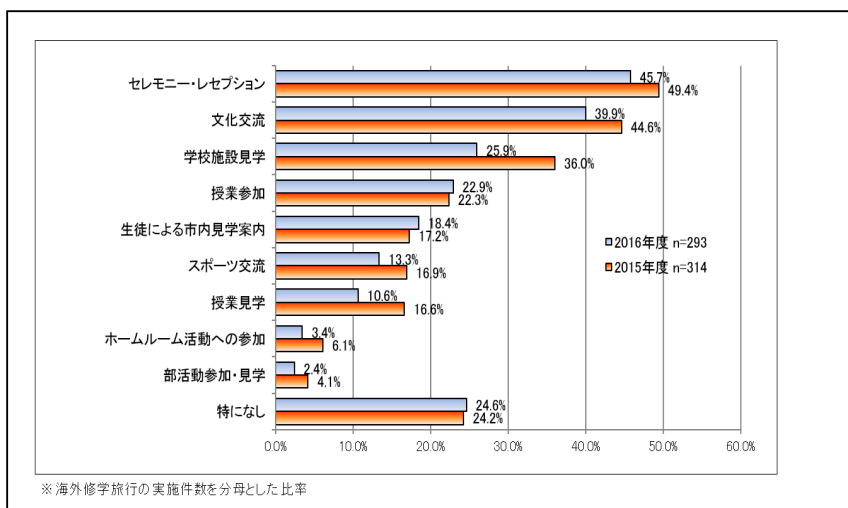
## 2. 海外修学旅行の訪問国・地域別割合（件数比）



ベトナムを中心とした「その他アジア」の増加等があったものの、もともと件数が多い台湾・シンガポール等の減少から、アジア系が前年の 54.6%から 45.0%と減少した。その他では、オセアニア系が前年の 17.2%から 19.5%と増加、アメリカ本土・ハワイも増加。「ほか（英・仏以外）のヨーロッパ」も前年の 4.4%から 7.0%と増加した。「他のヨーロッパ」の増加

は、私学で独自性のある行き先を模索している影響もあると思われる。

## 3. 海外修学旅行の学校間交流内容（複数回答）



海外旅行実施件数を分母とした比率で、前年と比べた場合に全体として大きな変化はないといえる。「セレモニー・レセプション」（45.7%）や「文化交流」（39.9%）を中心活動として、

多くの学校が学校交流を目指しており、実施経験を積む中で、より充実した内容への模索が行われているといえる。

